

○第1回会合（5月31日）では、各機関から、全体計画に盛り込むべき研究開発の課題について報告し、全体計画のとりまとめに向けて、自由討議を実施。

（課題の種類）

- ①関係の審議会や研究会で抽出された課題
  - ②包括的技術報告書の策定過程で明らかにされた課題
  - ③科学的特性マップの提示に係る要件・基準に関するパブリックコメントに寄せられた意見
  - ④各研究機関の研究活動から抽出された課題
- 等

○外部有識者の意見を踏まえることが有効との指摘がなされた他、議論の結果を踏まえ、全体計画でとりあげるべき研究開発課題について、実施主体であるNUMOで検討し、本調整会議に報告することとされた。

## （参考）第1回会合における主な議論

- 今後、処分地の選定調査段階で必要となる調査・評価技術の信頼性向上に向けた研究開発が重要。
- 現在実施中の研究開発や研究会等から抽出された研究開発テーマを引き続き進めていくことが重要。
- 「科学的特性マップ」の要件・基準策定の際に実施したパブリックコメントに寄せられた意見も踏まえ、技術的信頼性についての国民の声にもこたえていくことも重要。
  - ・ 深地層では数百万年前の化石海水が存在し、地下水が長期的に安定していると言われていたが、坑道を掘削すると地下水が流出してくるため、実際の地下水の安定性は疑問である
  - ・ 坑道埋め戻し後は、長期的には坑道跡が水みちとなり、地下水の流動により、封じ込め効果の喪失が懸念される
- 全体計画の策定に向け、外部有識者の意見を踏まえることが有効。